

Patent attorney

私の目指す弁理士像

• No. 86

会 員

福 島 宏

20代も残すところあと数年となりましたのに、未だ稚拙な考えではと恐縮ですが、(1) 素直に物事を受け入れる謙虚さと、(2) 既成の固執した考え方を捨てることのできる勇氣、という二点の人間性を生涯において持ち続けることができる弁理士像が理想かと考えています。

近年、従来よりも弁理士に対して訴訟など新たな分野が開かれるようになってきている社会傾向などからも、何が正しい態度であるかという弁理士としての「道」は今後においても多様に変化し、「不変であり、普遍である」という性格ではないようにも思えます。この性格から、弁理士としての「道」を、どのような先見の明をもって見据えるのかということとは、少なくとも私には難しく思えます。

これに対する少々歪曲した一つの回答かもしれませんが、弁理士としての「道」が上記のように不変でなく普遍でないものであれば、時代に応じた弁理士としての「道」としてより正しいものを常に勉強し続け、それまでに築きあげた既成の考えを日々補正し、改め続けるしかないのではとも思います。この既成の考えを日々補正し続けるために上記 (1) 物事を素直に受け入れる謙虚さ、と (2) 固執した考えを捨てる勇氣、という二点の人間性を持つことが私個人としては、重要に思えるようになってきました。

日々懸命に仕事を、そして仕事の勉強をし、その時点でベストと考えられる「私なり」の考えを築きあげてはいるつもりです。しかしながら、その考えはあくまでも「私なり」であって、単なる独りよがりの考え方も含まれてしまうことも否めないと思います。あくまでも主役は私でなく、クライアントの皆様ですから、このような主観的な「私なり」の考えではなく、客観的な考え方をもち、私自身より主役のクライアントの皆様を引き立てる考え方で臨まなければならないかと思えます。この客観的な考え方を得るために、より正しいものを常に勉強し続け、それまでに築きあげた既成の考えとのずれを補

正し、改め続けるしかないとも思えるようになりました。

客観的な考え方を得るための大きな課題としては、既成の考え方を客観的に批判するための優れた批判基準をいかに持つかということかと考えます。特許業界の門を叩いて以来、よき師匠に恵まれ、自己の固執した考えを批判して頂きました。視野が狭く主観的になっている自分をハッと気づかせてくれ、既成の固執した考えが独りよがりのものであると判断することができたように思えます。多くの人と積極的にコミュニケーションをとり、自分の考え方を批判して頂くことが優れた批判基準を持つための一つの回答であるかと思えます。

しかし、せっかく得られた批判基準を活かせないのではいけませんので、そのために、傲ることなく (1) 他の方から指摘されたことを素直に受け入れるという謙虚さ、を持ちたいと思っています。それと同時に、受け入れたことが正しいと判断した場合には、いかに永年の努力で築きあげた考えであっても (2) 既成の固執した考えは捨て、考えを改めるという勇氣、を持てるように努力したいと思っています。過去において、恥ずかしながら独りよがりな考えに仮初めのプライドを持って固執し、既成の考えを頑固に改めなかったことを考え、反省する毎日です。

(1) 素直な謙虚さ、と (2) 固執を捨てる勇氣、という二点の人間性を持ち続け、経験者の先輩は勿論、自分よりも経験の浅い後輩、担当分野は勿論、全く異なる分野の方、特許業界は勿論、全く異分野の友人など全ての方を可能な限り「先生」として仰ぎ、そして何よりもクライアントの皆様から弁理士の「道」としてより正しいと考えられるものを常に勉強し、考えを補正し、改め続けることができる「転がる石に苔むさず」というような生涯を送る弁理士を目指して仕事と併せて「人間性の研磨」に励みたいと思っています。